

## 平成21年度 第2回平田地域協議会 会議録（概要）

1. 日 時／平成21年7月24日（火）午後1時30分～午後4時

2. 場 所／ひらた生涯学習センター 大研修室

3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦）

奥山仁委員・阿曾智子委員・小林悟委員・和根崎勘一委員・堀弥志男委員・  
長谷部耕次委員・佐藤力委員・菅原律子委員（副会長）・・・・・・計 8名

（2）2号委員（識見を有する者）

阿部敬子委員・後藤保喜委員・富樫文雄委員（会長）・・・・・・計 3名

（3）3号委員（公募）

佐藤達也委員・藤原幸雄委員・・・・・・・・・・・・・・・・計 2名

（4）酒田市

平田総合支所 佐藤富雄支所長・石川忠春地域振興課長・  
井上太地域振興主幹・中條幸弥市民福祉課長・  
佐藤政好建設産業課長・土田瑞穂地域振興課長補佐・  
地域振興課小松原毅地域振興主査兼地域振興係長・  
地域振興課高橋慎主任・・・・・・・・・・・・・・・・計 8名

出席者合計21名

4. 欠席届／1号委員（団体推薦） 加藤勝子委員

・ 3号委員（公募） 富樫美雪委員

5. 次 第／（1）開会

（2）平田地域協議会 会長あいさつ

（3）平田総合支所 支所長あいさつ

（4）会議録署名委員の選任

(5) 報告

- ①新市建設計画主要事業（平田町分）の実施状況について
- ②コミュニティ振興会の状況について
- ③ひらた生涯学習センター テニスコート使用料の改定について
- ④移動市役所について
- ⑤移動教育委員会について

(6) 協議

- ①平成22年度 地域づくり予算について  
(平成18年度から平成20年度までの実績報告)
- ②中山間地域の振興とひらた生涯学習センターの在り方について
- ③その他

(7) その他

(8) 閉会

6. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

本日はご参会、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

今日の協議議題となっている中山間地域の振興については、以前から討議してきたし今後も続けていかなければならない。また、今回は「ひらた生涯学習センター」についても話し合われるため、「目で確かめ」「足で歩いて」現場を確認することが必要と考え、ここを会場とした次第である。

平田地域が抱える山積する課題については、合併後も地域協議会において議論を深めてきたところであるが、本日も15名の委員によって、様々な角度からご意見やご質問をいただきたい。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶佐藤支所長

皆さんこんにちは。公私共ご多忙にもかかわらず、第2回目の平田地域協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また委員の皆様から、日ごろより地域の振興や発展、住民福祉の向上にご尽力いただいていることに対し、厚く感謝申し上げます。

3点ほどご報告させていただく。1点目は、コミュニティ振興会の組織体制に移行してから4か月になるということ。去る4月28日には五つのコミュニティ振興会の正副会長からなる「平田地域コミュニティ振興会連絡協議会」が発足し、会長には長谷部久雄氏が就任された。

組織・体制が変わったことで、当初は想定していなかった課題が出てきたこともあり、月1回の定例会を開催することとした。現在は各コミュニティ振興会の間で共通理解を深めることに努めているが、4ヶ月が経過し、コミュニティ振興会報の発行に加え、敬老会、運動会など主要事業も開催していただいている。さらに「コミ振」ということで、地域振興に向けた新たな事業に対しても、積極的に取り組んでいただいている。後ほど五つのコミュニティ振興会からご報告いただけるとのことだが、これまでの活動に対し深く感謝申しあげる。

2点目は、7月18日から19日にかけての大雨の状況についてである。18日の深夜に大雨警報が発令され、市でも警戒態勢に入った。明けて19日には、土砂災害警報も発令された。今回の雨は、平成16年7月の災害と似た傾向がある。胎蔵山周辺に雨が降ったようで、中野俣川が増水したり楯山地区の被害が発生したりしている。頭首口の一部流出といった被害も発生しており、後ほど建設産業課長より被害状況を報告させていただく。

まだ梅雨は明けていないが、梅雨明け直前に大雨による土砂被害が発生することは多々ある。間もなくその時期に入るが、委員の皆様からも、地域の安全・安心の確保に向けご指導・ご支援をいただきたい。

3点目は、7月22日から8月21日まで1か月間実施される「明るいやまがた夏の安全県民運動」についてである。7月25日からは、飛鳥中学校、南平田・田沢小学校が夏休みに入る。期間中は子ども会や各種行事で海・山・川に出かけることも多くなるが、そこでの事故を防ぎたい。また夏ということで、グループによる深夜徘徊も予想される。青少年の健全育成への気配りも必要である。

今年に入って酒田警察署管内では6件の交通死亡事故が発生しており、現在緊急対策に取り組んでいるところである。交通安全運動にも徹底して取り組んでいくが、子どもたちにとっても楽しい夏休みとなるよう、

皆様からのご指導・ご協力をいただきたい。

(4) 会議録署名委員の選任

▶ 富樫会長

名簿登載順ということで、2番の阿曾智子委員をお願いします。

(5) 報告

① 新市建設計画主要事業（平田町分）の実施状況について

▶ 石川地域振興課長より説明（資料の内容を説明）

▶ 長谷部委員

合併後3カ年主要事業である田沢川ダム周辺整備事業について、「桜の里」はどうなっているか。相当の財源を投入して整備を進めてきたはずだが。

森林資源活用基盤整備事業について、アイアイひらたにおけるお客さんへの対応に対する評価はどうなっているか。第三セクターであり、行政としてどこまで入ることができるのか。将来的なものをどのように考えているのか。

林道整備事業について、「事業継続中」となっているが、どの路線がどういった進捗状況となっているのか。

町道整備事業について、名称は市道整備事業ではないか。合併に際して21路線を市道に認定し、整備を進める計画であったと思うが、21路線の計画は現在生きているのか。また防災道路計画として平成19年度までに完成させるとして、合併時の条件として提出してあったものが立ち消えになっているのかどうか、記載されていない。

生活環境基盤整備事業について、六ヶ村排水路の改修として当初4億の事業費であったものが、合併後見直しされ縮小しての実施となっているが、どのように計画が変更されたのか。

地区集会施設整備事業については、要望があった部分を整備したのであって、いわゆる限界集落に近い状況のなかで、地域住民が一致結束してサロンの計画などコミュニティづくりを進めていこうとするときに、環境が整っていないことが多々ある。これだけでいいのかという気がしている。

合併後4年目以降主要事業の砂越駅周辺整備事業について、商工会と行政との意見の相違があったということを前回の地域協議会で述べさせてもらったが、その後の行政側の捉え方はどうなっているかお聞ききし

たい。

中学校整備事業については、平田町総合計画において重要事業に位置付け、平成21年度に整備するとしていたが、耐震工事を積極的かつ早急に実施するという事に切り替えたと理解する。

全体的に見て、行政で作った基本計画を縮小・廃止・見直しするときに、行政側からのみの判断で行っているが、平田地域の場合、行政がやりたくてもできないものについて補佐をするため、経済団体との協力路線が必要と考える。たとえば「赤ねぎ」の場合、生産者数は減少するものの作付面積は維持している。「農産物特産品開発調査研究事業」を実施し、収益性など生産者団体が喜べる状況なのかを考えた場合、生産物の販売方法などは現状でいいのか。経済団体の情報を営業実績に反映させることも可能だと考えるが、農業サイドとしての所見はいかがか。

▶佐藤建設産業課長

田沢川ダム周辺整備事業については、面的な整備は終了したと考える。「桜の里」については、地元と協力しながら管理している。

森林資源活用基盤整備事業については、ペレットの価格が上がり経営が厳しいことは伺っている。その部分についての補助などについても検討したが、補填するための新たな制度を創設するまでには至っていない。

農道整備事業については、年次計画に沿って整備しており、平成18年度に楯山線の舗装工事を実施している。以降の農道整備は行っていない。

林道整備事業について、平成18年度から平成21年度までの事業である百合沢線は8月に発注し、11月に完了する予定。平成17年度から平成21年度までの事業である東部2号線は、延長1km程度で12月に完成予定。鷲沢2号線は、平成20年度で事業終結。「道整備交付金」が平成21年度までの制度であるため、舗装整備を優先させた。

「作業道開設交付金事業」は平田町時代の平成17年度まで行い、平成15年度から平成17年度まで16件実施した。合併に伴い「酒田の森林（もり）づくり推進事業」に引き継がれ、平成18年度から平成21年度まで、平田地域では9件が実施されている。

市道整備については「道整備交付金」を活用し、村北鹿島線が平成17年度と平成18年度で全線完成した。平成18年度から始まった海ヶ沢線の整備は、平成21年度で延長1880mの全線が完成した。市単独事業についても、年次計画に基づき随時実施している。新たに市道認定された21路線については、平成20年度に台帳整備を行っている

が、整備計画の路線には上がっていない。

六ヶ村排水については平成19年度に調査を行い、平成20年度に一部鉄橋下の改修工事を行い川底を下げている。4月27日に砂越で、5月15日に砂越緑町で説明会を開催した。内容としては、大雨時の水量など改修の効果を確認・調査した後、整備計画を検討していきたい旨説明した。

農産物については、目ん玉畑などで販売しているが、年間売上は一億円を突破している。赤ねぎについては、今年度は特別な対策は実施していない。

▶石川地域振興課長

地区集会施設整備事業については、合併する際に平田町にあった、新築時500万円を助成する制度を活用した事業が、平成19年度の吉ヶ沢で完了となった。新市においても集会施設の整備などに対する補助制度があり、集会施設の改修や洋式トイレの設置といった福祉設備の設置などに対し、制度を活用していただいている。

砂越駅の管理については、今年度はふれあい商工会から受託いただいているが、余剰金など様々な部分で市の考え方と違いがあった。来年度の委託契約締結に向けては、ふれあい商工会と市とで協議中と認識している。

中学校の耐震については、整備を行うにあたって耐震診断を実施している状況であり、ご理解をいただきたい。

▶佐藤力委員

新市建設計画主要事業のうち、未着手や計画の取り消しが見られるが、我々はどう受け止めればいいのか。

六ヶ村排水について、地元の砂越として現地調査、踏査を行い、説明会での説明を受けてよしとしているが、宅地造成も含め、将来における平田地域全体の発展を考えた場合、合併後4年目以降の事業についてどう理解すればいいのか。

▶佐藤建設産業課長

事業の実施については、優先度など総合的に判断して事業化、予算化している。

六ヶ村排水について、平成19年度に調査を行っているが、飛鳥バイパスの開通に伴い排水の状況が変わることも考えられる。現在はまだ判断がつかない状況であるため、19日の雨の時も、水の流れなどについて土木課で現場確認を行っている。六ヶ村排水の県道部分について、水

道管・下水道管が横断しているが、水道局と下水道課に対し改修に必要な事業費についての試算を依頼し、作業中である。

▶石川地域振興課長

合併後3カ年主要事業25のうち、2事業が計画策定時から状況が変わったことにより、計画の取りやめ・未着手となっている。障がい者交流施設整備事業については、平田地域内の福祉関係団体に意向確認を行ったところ、団体が主体となって事業へ取り組む計画がないということであったため、行政主導による事業は行わないということで、計画の取りやめとなった。

宅地造成事業については、仁助新田周辺、南平田地区の宅地開発を想定しての計画であったが、市街地で宅地造成された土地の販売状況も見ながら総合的に判断した結果、現時点において、平田地域では行政主導の宅地開発を行わないという考え方である。

▶富樫会長

新市建設計画主要事業については、全市的な事業として対応するなど、名称や所管課を変えて継続することもあると聞いている。今後も変更などがあった場合は逐次報告させていただきたい。

②コミュニティ振興会の状況について

▶井上地域振興主幹

各コミュニティ振興会の事務員に対する事務についての研修会を、5月に実施している。この研修会は、年度中にあと数回実施したいと考えている。また、まちづくり推進課によるコミュニティ振興会補助金の説明会が、6月に行われている。

4月28日に立ち上げた「平田地域コミュニティ振興会連絡協議会」については、各コミ振とも発足したばかりで情報交換が必要とのことで、6月の会議の際に、定例会として毎月開催することを決定している。

7月には地域振興課とまちづくり推進課で各コミュニティ振興会を訪問し、他の事例を紹介しながら事業の組み方や、お金の使い方について助言している。現在までのお金の使い方については、研修会等の効果もあり、各コミュニティ振興会とも適切に執行されている状況であった。

今後も、各コミュニティ振興会で事務処理など分からないことがあった場合、地域振興課とまちづくり推進課ですぐに対応できる体制となっている。また老人クラブ連合会に対しても、理事会の際に、コミュニティ振興会補助金の説明をさせていただいた。

各コミュニティ振興会において、これまでの4ヶ月間で実施した主な事業としては、四つのコミュニティ振興会で大運動会、軽スポーツ大会が行われている。田沢コミュニティ振興会については、今後実施されると伺っている。市民体育祭については平田地域全体で参加しているが、各コミュニティ振興会の正副会長さんから実行委員として協力いただいている。

それぞれの活動としては、田沢コミュニティ振興では新緑ウォーキング大会、敬老会を、東陽コミュニティ振興会では経ヶ蔵ツアー、中野俣地区の敬老会、地域美化活動としての啓発看板設置を、郡鏡・山谷コミュニティ振興会では区長研修会を2回と、防火訓練、健康づくり交流会を、南平田コミュニティ振興会ではクリーン作戦、料理講習会を、砂越・砂越緑町コミュニティ振興会ではクリーン作戦、自主防災の集い、料理講習会を実施している。各コミュニティ振興会では、今後も様々な事業を計画しているが、地域振興課としても引き続きサポートしていく。

▶長谷部委員

地域振興主幹から説明のあったことについて、資料として提出できないか。

▶井上地域振興主幹

コミュニティ振興会発足後、まだ4ヶ月と間もないことから、今回は口頭で説明させていただいたが、後日資料を提出させていただきたい。

▶富樫会長

各コミュニティ振興会の課題を、平田地域協議会としても共通のものとして解決していくため、コミュニティ振興会を代表する5名の委員から、活動現状や課題などについてご報告いただきたい。

▶奥山委員

田沢コミュニティ振興会は、山元3地区78戸、田沢5地区204戸、合わせて8地区282戸という小さなコミュニティ振興会である。組織体制は、区長と識見を有する者からなる総務部、広報部、安全防災部、環境衛生部、福祉部、農政部、文化教養部、体育部の8部で構成される。

現在の悩みとしては、戸数の割に面積が広くまとめづらいということや、田沢コミュニティセンターが古くてトイレも男女一緒ということなどがあげられる。コミュニティセンターについては市に要望した結果、8月には改修されると伺っている。駐車場も大半が碎石を敷いたのみであるため、除雪にも支障があるということから、舗装についても要望している。



活動については、田沢で以前から行っていたサミットと称する地区ごとの自慢や悩みを報告し合う会を、総務部の事業として田沢コミュニティ振興会8地区で実施した。先日各地区の三役以上が集まり、車で各地区を回り、自慢する所、困っている所などを見ている。今後、困っている所についてまとめ、平田総合支所に相談にいくとのことであった。

広報部では会報の第1号を発行し、現在は第2号の発行に向け準備をしているところである。敬老会については、総務部と文化教養部の事業として、山元と田沢で会場は別ながらも、同じ日に開催している。夏祭りについては相談中である。体育部で計画したグラウンドゴルフは雨のため中止となったが、運動会は田沢小学校と合同で実施する予定である。

また、地域を見直そうということで、山元にある「まご滝」を総務部で見に行ってきた。明日の夜には山元公民館において、生涯学習施設「里仁館」の植松館長による講演も行われるので、皆さんからもおいでいただきたい。

#### ▶阿曾委員

東陽コミュニティ振興会では、総合支所でコミュニティ振興会設立準備委員会を担当していた職員の異動もあり手探りでの発進となったが、総合支所地域振興課やまちづくり推進課のアドバイスもあって、各専門部の事業とも順調に進んでいる。

大きな事業について、運動会のように東陽小学校学区として開催してきたものはいいのだが、敬老会のように中野俣、北俣それぞれで開催してきたものについては初年度からの一本化は難しく、今年は別々に実行委員会を組織して開催する。「川祭り」については中野俣を中心に、「芸術祭」については北俣を中心に実行委員会を組織し、役割分担しながら事業を実施する。2・3年後には、各事業とも中野俣、北俣が一体となって実施していこうという目標を立てている。

今一番の課題は、公民館時代と比べ事業費も増え、よりしっかりとした事業の実施が求められていること。各専門部の取り組みに対し、事務局としてもできる限りのお手伝いをしていきたい。

#### ▶小林委員

郡鏡・山谷コミュニティ振興会では、郡鏡・山谷の統一事業として、区長研修会、防火訓練、軽スポーツ大会、グラウンドゴルフ大会を実施し、両地区住民の親睦と交流を図ってきた。開催場所が郡鏡であったため、山谷からの参加人数について心配したが、幸いにして各事業とも、初年度としては予想を上回る参加があった。盛況に開催することができ、

執行部としても喜んでいる。

私個人としても、コミュニティ振興会へ移行するに際し、拠点でない山谷は拠点まで遠いということで、何を行うにしても参加者が少なくなるのではないかと心配していたが、現在は心配もなさそうだとホッとしている。

当初の事業計画立案の時から、まず今年度は無理をせず、やりやすい事業を選んで統一事業として実施し、今後協議しながら統一事業を増やしていくこととしている。現在のところ、順調に推移していると考えている。

課題としては、郡鏡10集落と山谷3集落で分館当時から運営のやり方が異なっていたこと。今後時間をかけて協議し、調整を図って、なるべく早く一体となって運営できるよう努力していきたい。

#### ▶和根崎委員

南平田コミュニティ振興会は、飛鳥410世帯、檜橋80世帯が一緒になって発足した。住民が色々な事業に参加してくれるか心配であったが、これまで実施したクリーン作戦、運動会、川きれ運動、料理講習会などに対し、多くの住民から参加いただき順調なスタートが切れたと思っている。専門部としては九つあるが、飛鳥と檜橋で交流の場を持ち意見の集約を行いながら、それぞれの事業を展開している

先日開催された運動会には400名近い参加があったが、その際に住民から、「飛鳥で盛んな、グラウンドゴルフで交流したい」との声があった。そこで8月に、飛鳥と檜橋が一緒になってグラウンドゴルフ大会を開催することとした。これは住民の声を基に急遽決めた事業である。明後日に飛鳥、8月2日には檜橋で運営委員会を開き、これまでの反省や要望を取りまとめたと考えている。

南平田コミュニティ振興会が発足し、ほとんどの公民館事業が引き継がれたわけだが、「では自治会として、どういうことをしていけばいいのか」「今までと同じでいいのか」というのが課題であり、運営委員会でも相談する。経済状況が厳しいなか、飛鳥・檜橋とも自治会費として1万円前後の負担をお願いしてきたが、これが重荷となっている住民が増えている。そこで飛鳥・檜橋とも、来年から自治会費を軽減することを考えている。

#### ▶佐藤力委員

3月29日の設立総会を迎えるまで、何回も何回も集まって苦労を重ね、砂越・砂越緑町コミュニティ振興会が誕生した。戸数については、

砂越が380戸、砂越緑町が180戸である。構成としては、理事が18名、評議員が32名で、七つの専門部の内訳は、総務部、広報部、生活安全部、環境衛生部、社会福祉部、体育部、文化・教養部となっている。砂越・砂越緑町コミュニティ振興会でも、正副会長と総務部で月1回の定例会を開催している。

課題としては、砂越と砂越緑町での歴史観の違いがあげられる。4カ月が過ぎ意見の異なる場合もあるが、合同でできるものは無理のない形で、なるべく一緒にやっていきたい。互いに相手を尊重し、話し合いながら目的に向かうのが寛容かと考えている。

▶菅原副会長

昨年までは、地区と婦人会が一緒になって敬老会を開催してきたが、今年度からコミュニティ振興会ごとに開催することになった。市からの補助金は一人1,500円であり、これまではこの金額で、サービスが低下しないようお祝いすることができた。

しかし今年になって、今までどおりのお祝いができないような見通しである。不足する分については、コミュニティ振興会と婦人会とが力を出し合い、サービス低下にならないようにしたいと相談している。六つの婦人団体が連絡を密にしながら、敬老会の準備を進めているところである。

③ひらた生涯学習センター テニスコート使用料の改定について

④移動市役所について

⑤移動教育委員会について

▶井上地域振興主幹より説明

(③ひらた生涯学習センター テニスコート使用料の改定について)

▶石川地域振興課長より説明

(④移動市役所について)

(⑤移動教育委員会について)

▶佐藤達也委員

ひらた生涯学習センター テニスコート使用料改定の、理由を説明いただきたい。

▶井上地域振興主幹

今までコートの状態が悪く、今年度改修したことに伴い、他の体育施設と同じ使用料となるよう統一したことによる改定である。

ただし減免規程があり、平田地域の場合、総合地域スポーツクラブの

「目ん玉スポーツクラブ」加入団体が使用する場合や、学校長が申請して平日に部活動で使用する場合などは使用料が発生しない。

▶長谷部委員

減免の対象者に、減免規程や対象者が記載されたものを配布すべきではないか。

▶佐藤政好建設産業課長

7月18日から19日にかけての大雨による、市道、農業用施設等への被害について、確定していないため口頭で説明したい。

(平田総合支所管内の被害状況について説明)

▶富樫会長

報告についてはこれで終了する。

休憩いたします。

(6) 協議

①平成22年度 地域づくり予算について

(平成18年度から平成20年度までの実績報告)

②中山間地域の振興とひらた生涯学習センターの在り方について

▶富樫会長

再開いたします。

▶石川地域振興課長より説明

(①平成22年度 地域づくり予算について、

②中山間地域の振興とひらた生涯学習センターの在り方について)

資料として提出した「地域づくり予算 年度別実績」もご覧いただき、平成22年度予算要求に向けてのご意見・ご協議をいただきたい。

中山間地域の振興、ひらた生涯学習センターの在り方については、第1回の地域協議会の後、平田地域振興課、生涯学習課、企画調整課の関係課が集まり、打ち合わせを行っている。内容は、ひらた生涯学習センターについて、当面、そして長期的にどうしていくか意見交換を行ったものである。

当面の課題として、現時点では平成22年度から、施設管理を委託する方法も一つの選択肢であるとしている。その理由は、コミュニティ振興会が発足し各公民館から市の職員が引き上げているなか、ひらた生涯学習センターだけに職員が配置されており、他とのバランスを欠くためである。併せて、宿泊・体育施設の機能を生かした運営方法、地域の人材を活用できないかといった点についても検討を進めている。

今後の進め方としては、当面の課題である施設の管理・運営をどうしていくか検討しながら、中・長期的には隣接市有地の活用も含め、中山間地域の振興にどう結びつけていくか考えていきたい。

また平田地域においても、各地区で独自の地域づくり活動が展開されているが、こういった活動を行う団体からもお集まりいただき、意見を伺う場を設けたいと思っている。またこうした団体が連携することで、地域づくりや中山間地域の活性化をより進めることができないか、検討していきたい。

中山間地域の振興方策について、地域特性を生かした「地域づくり」という視点から、各コミュニティ振興会においても今後検討していただきたい。国や県の地域づくりに対する支援制度について、これまでは地域や団体に対しての情報提供が少なかったと反省している。今後は早めに情報提供を行うと同時に、制度を活用する際の申請手続き等に対しても支援していきたい。

▶富樫会長

コミュニティ振興会に対する補助金については、どのように事業を組み、手続きをし、会計処理をするのか、コミュニティ振興会の事務局でも熟知するまでには至っていない。総合支所機能の良さを生かしてコミュニティ振興会との連絡を密にし、市民の活動をフォローしていただきたい。

ご意見、ご質問などございませんでしょうか。

きっかけとして発言するが、総合支所の機能がコンパクトになっている。職員も大変だと思うが、地域課題の解決に向けてはしっかりと対応していただきたい。

▶長谷部委員

予算権限を持たせるなど、支所機能を強化することが必要ではないか。

▶佐藤支所長

総合支所の役割は、合併の不安を解消し、旧3町地域における市民の要望をいち早く市政に反映させていくことである。議員数も少なくなるということで、住民の強い要望もあり、条例を定めて地域協議会を設置している。支所として予算執行できるのが、庁舎管理と地域づくり予算などである。

合併当初より、総合支所と本所との連携が大きな課題であった。総合支所に相談・要望・苦情が寄せられた場合、いち早く本所に上げ、本所で協議・検討された結果は迅速に総合支所に返して直ちに住民に応える

べく、全職員が向かっている。

▶長谷部委員

誰もが市役所に行って話をできるわけではない。旧平田町の住民であれば、やはり支所に行くわけで、支所で答えを出せるような環境にしていかないと、住民の意識として総合支所は遠くなる。地域協議会としても、住民にそういった感覚を持たせないような議論をしていくべきである。

▶藤原委員

長谷部委員の意見に関連するが、私も地域住民と総合支所との距離が、遠くなったという感を持っている。具体的には、毎年全戸配布されてきた総合支所内の職員配置図が、今年は待っていても届かなかった。4月の人事異動の際にあった、広報による市職員の異動の報告もなかった。このことは、総合支所の意識が住民に向いていないことを表しているのではないか。

▶石川地域振興課長

職員配置図の各戸配布については、今年度は行っていない。今年度からコミュニティ振興会が発足したこともあり、コミュニティセンターなど管内の各施設に職員配置図を置き、必要な方は持ち帰れるように対応を変更したが、今回のご指摘を受け、来年度から、また各戸に配布する方向で検討したい。

人事異動の内容について、合併後は異動する職員も多く、新聞での報道もあるため市としての周知は行っていない。

▶富樫会長

本件については、早急に検討していただきたいということを、会長としても申し上げます。よろしくお願ひしたい。

▶菅原副会長

私は、平田地域の人同士の会う機会が減っている感じがしている。たまに会って「あー、久しぶり」ということもある。「地域振興まつり事業」に力を注ぎ、「目ん玉まつり」などに平田全域から人が集まって盛り上がるよう、人と人とのつながりに対して予算を使っていただきたい。

▶後藤委員

「地域づくり」はいかにあるべきかを考えたとき、「人づくり」につきるのではないかと思っている。地域で頑張っている人、旗を振ってくれる人にみんなが賛同し、それが大きな力となっていくような振興方策を探っていくべきではないか。

▶堀委員

地域づくり予算については、平成18年度と比較して減額となっている。市全体の中で統一された事業もあるという説明だが、ゼロではなく別の予算から出ていると解釈してよろしいか。合併以降、各種の整備が進み事業が完了して予算が減っているのか、それとも削減されたのかが分かりづらい感じがする。

▶阿部委員

昨年度より「森の白炭」として、地元の炭焼きを30年ぶりに復活させた。今年度は地域の宝として、「まご滝」を盛り上げていく機運が高まっている。炭焼きに来た人からの声をきっかけに、現在は「いぶりがっこ」に取り組もうと研修しているところであり、事業に組み立てていきたい。

③その他

▶長谷部委員

地域協議会を、各コミュニティセンターで開催することを提案したい。地区の役員などから傍聴いただけるのではないか。

▶富樫会長

会長に一任ということで、検討させていただきたい。各コミュニティ振興会の意向も伺って決定したい。

第3回地域協議会を終了します。